

第 2 章 たんだん 淡山地域

1 位置・受益面積

たんだん 淡山地域〔平成 28（2016）年 3 月末日時点〕は、兵庫県南部の加古郡稲美町のほぼ全地域とその周辺の神戸市、明石市及び三木市の地域からなっており、その詳細は下表に示すとおりです。

この地域内にある受益農地の面積（受益面積）は約 2,500 ヘクタールです。やまだがわそすい 山田川疏水が完成した大正 8（1919）年には加古川市にも受益農地があり、全体の受益面積は約 3,500 ヘクタールでした。その後、脱退や農地の転用によって受益面積が減少しました。

たんだん 淡山土地改良区の地域〔平成 28（2016）年 3 月時点〕

市 町	地 域
神戸市西区	上新地、竜が岡 1 丁目、竜が岡 2 丁目、竜が岡 5 丁目
	押部谷町 和田
	平野町 堅田、印路
	神出町 宝勢、池田、紫合、北、広谷、小束野、五百蔵、勝成、田井、南、東
明石市	岩岡町 印路、岩岡、西脇、古郷、野中
	大久保町 大窪、西脇
三木市	魚住町 金ヶ崎、長坂寺、清水、西岡、中尾
	別所町 花尻、石野、下石野、興治、小林
加古郡 稲美町	志染町 広野、広野 1～6 丁目
	加古、中村、北山、中一色、和田、幸竹、森安、六分一、岡、国安、国北 1 丁目、国北 2 丁目、国岡、国岡 2 丁目、国岡 3 丁目、蛸草、印南、野谷、草谷、下草谷、野寺



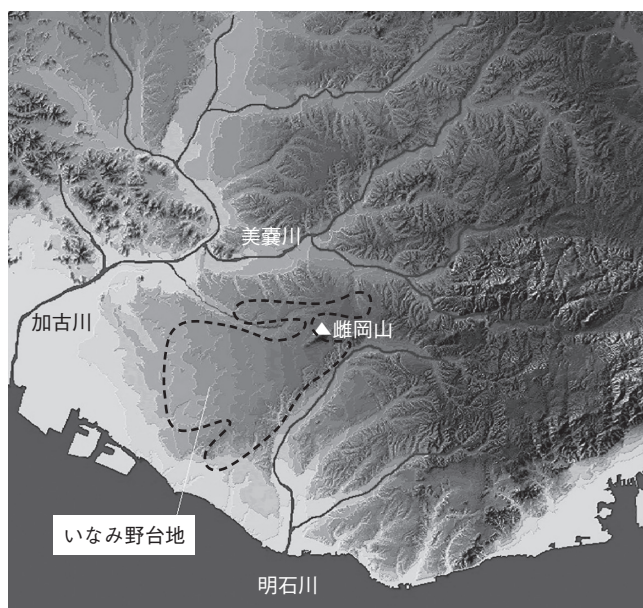
たんだん 淡山地域位置図

2 地形・気候・景観

(1) 地形

淡山^{たんざん}地域は、いなみ野台地のほぼ中央を占めます。

いなみ野台地は東西に明石川^{あかしがわ}と加古川^{かこがわ}、北に美嚢川^{みのうがわ}に囲まれ、南は播磨灘に臨み、その広さは、東西 16 キロメートル 南北 12 キロメートルに及んでいます。地形は河岸段丘と海岸段丘からなり、新生代後期の六甲変動の影響により、台地北東部に位置する雌岡山^{めつこうざん}山麓（神戸市西区神出町^{かんでちょう}）の標高 135 メートルから西南方の加古川河口近くの標高 10 メートル以下にまで傾斜しています。段丘の表面は砂礫層^{されき}で構成され、幾つかある小河川の流水は地下に潜り、表流水があまり見られない所もあります。



いなみ野台地の淡山^{たんざん}地域（点線で囲んだ区域）

(2) 気候

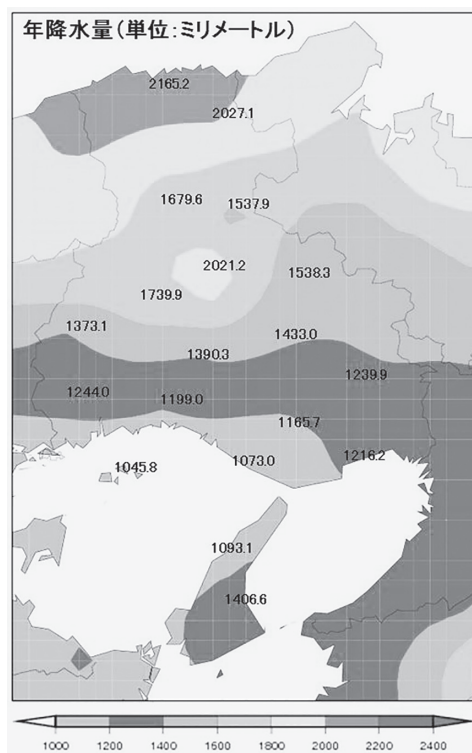
瀬戸内気候区に属しており、年間平均降水量〔昭和 56(1981)年～平成 22(2010)年〕は 1,070 ミリメートル程度であり、全国平均 1,720 ミリメートル程度より大きく下回っています。雨が少なく湿度が低い乾燥気味であり、海岸に近いことから暑さや寒さは比較的しのぎやすくなっています。特に冬季は少雨・多照が特徴ですが、梅雨期には大阪湾を北上する温暖気流と六甲山地の影響で、局地的な大雨が降ることもあります。（参考資料：神戸地方気象台 兵庫県の地勢・気候）

(3) 景観

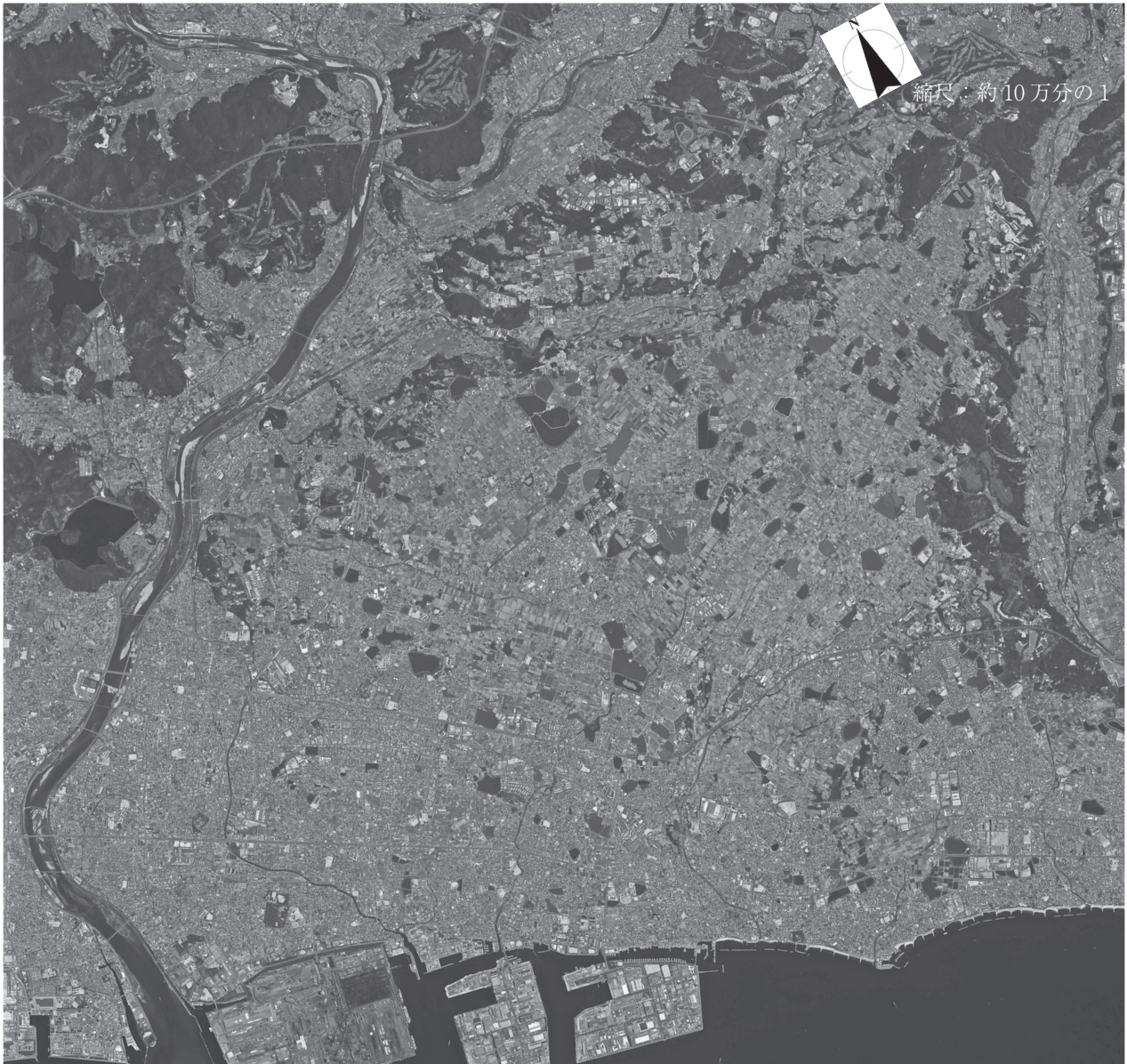
水に恵まれない地形と気候の淡山^{たんざん}地域では、古代から多くのため池が造られていました。加えて、淡山^{たんざん}疏水^{そすい}から送られてきた水を貯める多くのため池が新たに築造され、今日、日本一密度の高いため池群が形成されています。



ため池群



参考資料：神戸地方気象台年降水量
（統計期間：1981～2010）



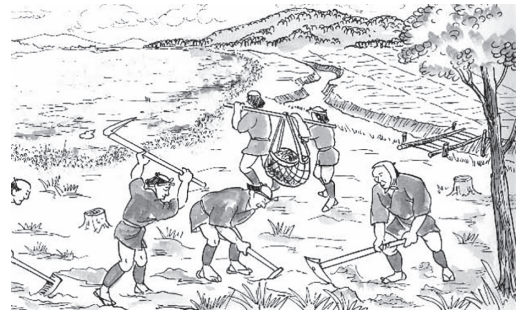
人工衛星から見たいなみ野台地のため池群（ため池：中央部に点在する小さな黒部分）

3 ^{たんざん}淡山地域水利開発の歴史

いなみ野台地周辺の加古川^{かこがわ}や明石川^{あかしがわ}沿いの低位部では、古くは弥生時代（紀元前4世紀～紀元後3世紀頃）から古墳時代（紀元後3世紀～紀元後7世紀頃）にかけて開発が始められており、古墳や条理遺跡が多く残っています。

いなみ野台地は、周辺部に遅れて奈良時代（710年～794年）頃から開発されました。この地域に古くからあるため池の歴史を見ると、県下最古といわれる岡の大池（現天満大池：加古郡稲美町^{おか おおいけ てんまおおいけ}ろくおいち 六分一）の築造が白鳳3（674）年、入が池（加古郡稲美町北山^{にゅうがいけ きたやま}）の築造が和同7（714）年とされています。また、その頃に編まれた『万葉集』には、いなみ野台地辺りは「伊奈美、印南、稲美」などと詠まれており、当時から知られていた地域であることが分かります。しかし、平安時代（794年～1192年）に書かれた『枕草子』では「野は。嵯峨野さらなり。印南野。交野野。…」と描かれており、当時は一面の原野があったことがうかがえます。

平安時代(794年～1192年)末期から安土桃山時代(1573年～1603年)にかけては、いなみ野台地では大きな水利改良や新田開発はほとんどありませんでしたが、この戦乱の時代に治水や築城などの土木技術が発展し、社会が安定した江戸時代(1603年～1868年)にはこれら技術を用いた水利改良や新田開発が全国各地で行われるようになりました。いなみ野台地においても明石藩、庄屋や大商人などによって低位の南西部から高位の雌岡山山麓^{めっこうさん}に向かって開



新田開発イメージ図

発が進められ、明治時代(1868年～1912年)までに多くの新田村落が誕生しました。

淡山地域^{たんざん}では、寛永元(1624)年頃から現加古郡稲美町^{なかいしきしんむら かこしんむら}に中一色新村や加古新村などが誕生し、延宝元(1673)年頃から現神戸市西区神出町^{かんでちよう いわおちよう}や岩岡町^{きたこしんでんむら}に北古新田村、南古新田村などが誕生しました。正徳2(1712)年頃には稲美町では最後の新田村である印南新村^{いんなんしんむら}が誕生し、現三木市別所町^{べっしょちよう}に興治新田村^{おきはるしんでんむら}と小林新田村^{こばやしんでんむら}が続きました。さらに、幕末には雌岡山付近の高位部に移り、元治元(1864)年頃^{しじみちよう ひろのしんかい}に現三木市志染町^{しじみちよう ひろのしんかい}に広野新開、明治9(1876)年^{かんでちよう こそくのむら}に現神戸市西区神出町^{かんでちよう こそくのむら}に小束野村が誕生しました。

新田開発ではため池を築造しましたが、開発が進むにつれ水利状況が厳しくなり、元文2(1737)年には餓死者が出るような大干ばつによる凶作も発生し、蛸草郷^{たこさこう}^{※1}と印南新村^{いんなんしんむら}を始めとして旧村と新田村との間で水争いが起きました。

このような時期の明和8(1771)年、淡山疏水^{たんざんそすい}の原形である山田川疏水^{やまだがわそすい}が立案されましたが実現せず、明治時代に淡河川疏水^{おうごがわそすい}、大正時代に山田川疏水^{やまだがわそすい}、平成時代に東播用水が完成し、今日の豊かな農業が営まれるようになりました。

江戸時代以降に誕生した淡山地域^{たんざん}の新田村

開発時期	新田村(現市町)
寛永元(1624)年 ～ 寛文2(1662)年	中一色新村 (稲美町)
	幸竹新村 (稲美町)
	加古新村 (稲美町)
	国岡新村 (稲美町)
延宝元(1673)年 ～ 元禄10(1697)年	南古新田村 (神戸市)
	北古新田村 (神戸市)
	天ヶ岡村 (神戸市)
	野谷新村 (稲美町)
正徳2(1712)年 ～ 享保13(1728)年	蛸草新村 (稲美町)
	印南新村 (稲美町)
	興治新田村 (三木市)
元治元(1864)年	小林新田村 (三木市)
	広野新開村 (三木市)
明治9(1876)年	小束野村 (神戸市)

参考資料：1 角川日本地名大辞典(28兵庫県)
2 稲美町史

加古郡稲美町における水争いの歴史 (江戸中期～江戸時代末期)

元文2(1737)年	蛸草郷と印南新村
寛保3(1743)年	蛸草郷と印南新村
明和元(1764)年	草谷郷 ^{※2} と山西新村(神戸市)
明和3(1766)年	草谷郷と加古新村、国岡新村
明和8(1771)年	(山田川疏水立案)
寛政9(1797)年	蛸草郷と草谷村
文化5(1808)年	草谷郷と勝成新村(神戸市)
文政2(1819)年	草谷郷と興治新田村(三木市)
嘉永5(1852)年	草谷郷と印南新村

参考資料：稲美町史

蛸草郷^{※1}：天満大池掛りの6か村

現加古郡稲美町岡、六分一、森安、国安、中村、北山

草谷郷^{※2}：草谷川掛りの8か村

現加古郡稲美町草谷、下草谷

現加古川市八幡町野村、下村、宗佐、上西条、中西条、船町

4 営農状況

淡山地域では、水には恵まれないものの温暖な気候であり、また京都や大阪に近いことから、江戸時代（1603年～1868年）には綿花やなたねを中心として大豆、小豆、きび、あわ、たばこなどが栽培されていました。特に綿花栽培は文政年間（1818年～1830年）に姫路藩が奨励したために盛んとなり、大阪周辺、広島などと並んで五大産地の一つとなっていました。

淡山疏水が開通してからは水稻栽培が盛んとなり、さらに東播用水事業が完成してからは冬期の用水も確保されたため、都市近郊といった条件を活かした施設野菜や軟弱野菜の栽培も盛んとなりました。米（コシヒカリ、キヌヒカリ）を中心に、麦（六条大麦）、トマト、キャベツ、いちご、メロンなどの多彩な農作物が栽培されています。



いなみ野メロン

安全安心で優良な品質であることを証する「ひょうご安心ブランド農産物」及び「稲美ブランド」に認定されています。美味しさを凝縮させるために、一つの樹に実は一つしかつけません。

六条大麦

加古郡稲美町とその周辺は西日本最大の六条大麦の生産地です。ほとんどは麦茶の原料として出荷されます。六条大麦で仕込んだ焼酎も製造されています。



いちじく

新鮮で完熟したいちじくを求めて神戸市西区神出町・岩岡町や加古郡稲美町の直売所に多くの人が集まります。生食だけではなく、ジャム、洋菓子、おしゃれな料理などに人気が高まっています。



キャベツ

神戸市西区岩岡町や加古郡稲美町などで減農薬のおいしくて安心なキャベツが多く栽培されています。



いちご

都市近郊の立地条件を活かし、南部地域で多く栽培されています。直売やいちご狩りも行われています。